

情報学委員会国際サイエンスデータ分科会

CODATA 小委員会（第 24 期・第 1 回）

議事要旨

日時：平成 30 年 6 月 15 日(金) 10:00-12:00

会場：日本学術会議 6 階 6A 会議室（1）

出席者 小関 敏彦、宮崎久美子、村山 泰啓、芦野 俊宏、伊藤 聡、岩田 修一、
大武美保子、五條堀 孝、長島 昭、中西 友子、原田 幸明

出席者(オンライン) 土光 智子

欠席者 井上 純哉、馬場 哲也（以上敬称略）

議事等

1. 小委員会役員を選任

国際サイエンスデータ分科会小関委員長より芦野委員が CODATA 小委員会委員長として推薦され、了承された。

芦野委員長より、副委員長として伊藤委員、幹事として大武委員、井上委員が推薦されそのとおりに了承された。

各委員より自己紹介が行われた。

2. CODATA 総会(31th CODATA General Assembly)への対応

本年 11 月に開催される第 31 回 CODATA 総会において、日本学術会議の CODATA 代表は小関分科会委員長であるが出席が困難である。このため芦野委員長が代理として出席し、かつ、総会において実施される CODATA 役員選挙において、CODATA Executive Committee メンバー候補として日本学術会議から芦野委員長を推薦することが国際サイエンスデータ分科会において議決されたことが説明され、了承された。

現在 CODATA Vice President である五條堀委員の任期が次回総会で終了となるため、CODATA 執行部における日本学術会議の議席を確保すべく努力する必要があることが確認された。

3. 話題提供・報告

芦野委員長より近年の RDA(Research Data Alliance)と CODATA との共同の Working Group, Interest Group などの活動について報告された。

五條堀委員より、現在の CODATA の体制、役員任期等について説明があった。CODATA の現状として、収支が赤字になっており、Executive Director の Simon

Hodson 氏が熱心に進めているアフリカでの活動などについては支出が大きく執行部内でも議論があること、収入を増やすために民間企業のメンバーシップも認めてはどうか、タスクグループ予算や EC メンバーの旅費削減、などの議論があるとの報告があった。

これに対し、CODATA のメンバーになることによるメリットをどう考えるかについての議論から、データを用いたビジネスの盛り上がり、CODATA China が北京に Regional Office を設置しようとしているなど、中国の国内事情と CODATA の位置付け、現在執行部にインドが議席を持っていないこと、納税者に対するデータの見せ方の重要性などが指摘された。

また、今後のデータに関わる戦略として、オープンデータとビジネス、データのオープン化の戦略、データそのものよりデータをどう使っていくかに価値が見出されつつあって、公開されたデータを組み合わせることで新しい価値を生み出すといった考え方に变化しており、CODATA もこれに対応する必要があることが指摘された。EU の GDPR のような公共政策としてのデータポリシー、データ活用に関わるルール作りなどについて CODATA における国際的な議論へ向けて国内の各分野、学会会議や産業界の議論をする必要があるとの指摘があった。

3. その他

今後、WDS 小委員会とも連携して国際サイエンスデータ分科会からの提言に向けて議論を進めていくことを確認した。

以上